

リコーグループ 責任ある鉱物調達方針

リコーグループ（以下、「リコー」）は、コンゴ民主共和国（DRC）とその周辺国、紛争地域および高リスク地域（CHARAs）における鉱物採掘や取引が武装勢力や反政府組織の資金源となり紛争を助長している、あるいは人権侵害、労働問題、環境破壊等と密接に関連している問題を重要な ESG 課題としてとらえ、サプライヤーと連携してサプライチェーンにおける責任ある鉱物調達の透明性と実践に取り組みます。

1. リコーは、「OECD（経済協力開発機構）紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・デリジェンスガイダンス」の内容に沿った取り組みを実施します。
2. リコーは、材料・部品・製品において、紛争地域および高リスク地域で産出され、武装勢力や反政府勢力の資金源となるようなタンタル、タングステン、スズ、金、コバルト等の使用を回避します。
3. リコーは、サプライヤーに対し RMI(Responsible Minerals Initiative)（※1）が提供する、CMRT(Conflict Minerals Reporting Template)、EMRT(Extended Minerals Reporting Template)等、業界標準の紛争鉱物フォーマットを用いた定期的な紛争鉱物調査を実施し、サプライチェーン上の製錬所の特定およびデューデリジェンス結果の情報開示を行います。
4. リコーはお客様からの紛争鉱物調査要請に対し、適切な調査結果の情報開示を行います。

サプライヤーには、リコーグループ紛争鉱物調査への支持と協力をお願いするとともに、RMI が認定する RMAP(Responsible Minerals Assurance Program)認証の製錬所からの鉱物調達を要請します。万が一、サプライチェーン上の製錬所リスクの可能性が確認された場合、リコーはサプライヤーに対して RMAP 認証製錬所への切り替え要請などの是正措置を実施します。

（※1） RMI…レスポンシブル・ミネラルズ・イニシアティブ、紛争鉱物問題に取り組む米国の組織